



スタンプラリー 交流拠点の公園

九重の「まちづくり」提言

このえ緑陽中3年生

7年間の集大成

【九重】九重町の歴史や文化、地域の特性などを学習する「このえ学」に取り組んできたこのえ緑陽中の3年生77人が、町への提言となる「まちづくりプラン」をまとめた。小学3年から学んできた集大成。2月中旬に農業、医療・福祉、地域づくりなど8分野に分かれたグループごとに7年間の成果を発表した。



分野別のグループごとに町への提言を発表するこのえ緑陽中の3年生
||九重町後野上の九重文化センター

本年度は新たな取り組みとして、行政や議会の仕組み、町の主な施策などを職員から聞く事前学習を実施。町役場を訪れ、各課の職員から現状と課題について説明を受けた。役場に何度も足を運んだグループもあり、柔軟で具体的なプランに仕上げた。

町内後野上の九重文化センターで開いた発表会でプレゼン。観光グループは町内全域を巡ってもらうスタンプラリーを提案し、「スマホを持っていない子どもや高齢者にも楽しんでほしいので、あえてアナログな計画にした。施設やお店にも協力してもらい、町全体でつくり上げたい」。

教育・子育てグループは町内に公園が少ないという課題を挙げ、「子どもや観光客が遊べる大きな公園を造り、親同士が交流できるカフェを併設する。子育てがしやすいだけでなく、観光客の増加にもつながる」と手描きのイメージ図を示して力説した。

日野康志町長は「町制施行70周年にふさわしい、素晴らしい発表だった。たくさん調べ、まとめてくれた提案を実現できるように努力していきたい」と述べた。

(宮家大輔)



〔問①〕 このえ緑陽中の「観光グループ」がどういった取り組みを提案しましたか。

〔問②〕 「教育・子育てグループ」が課題としてとらえたことは何ですか。

〔問③〕 あなたの住む地域の特性を調べ、課題となるものの解決策を考えてみよう。